点検ケーススタディー

いってきまーすの、その前に！〔タイヤの摩耗編〕

事故を未然に防ぐために、まずは義務である定期的な点検・整備が不可欠です。今回は、スリップ事故につながりかねない「タイヤの摩耗」について紹介します。摩耗したタイヤを使い続けると、雨の日のスリップだけでなくタイヤバーストのリスクも高まるので、しっかり点検をお願いします。

こんなとき

雨の日の運転中
「止まりにくい」「滑るような感じがする」

もしかすると・・・

●タイヤの溝が不足している

そのままにしておくと・・・

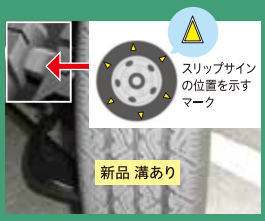
●タイヤがバーストする
●ハイドロプレーニング現象※が発生する

※濡れた路面を高速で走行した際に、タイヤと路面との間に水膜ができることで浮いた状態になり、コントロールできなくなる現象。

「タイヤの摩耗」確認のポイント

●タイヤの溝が十分に残っているかを手でさわって確認。

●残り溝が1.6㎜になると、タイヤの▲位置にスリップサインが現れるので、新品のタイヤに交換。



摩耗限度を超えると危険！

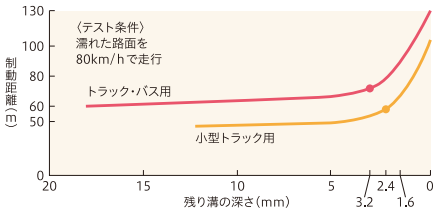
道路運送車両の「保安基準」において、自動車用タイヤの摩耗限度は「残り溝1.6mm」と規定されています。残り溝が基準未満のタイヤは、「整備不良」として使用禁止または車検不合格となります。なお、高速道路を走行する場合は、下表の摩耗限度を守ってください。

また、トレッド部（タイヤが直接路面に接する部分）がすり減って、溝が浅くなったタイヤは排水機能が低下し、滑りやすくなります。そのため、すり減ったタイヤで雨の日に濡れた道路を走行すると、スリップやハイドロプレーニング現象を起こしやすく危険です。

■高速走行時における自動車用タイヤの摩耗限度

タイヤの種類	溝の深さの限界
小型トラック用タイヤ	2.4mm
トラックおよびバス用タイヤ	3.2mm

■タイヤの溝が浅くなると伸びる制動距離



出典：一般社団法人 日本自動車タイヤ協会「タイヤのおはなし」、日野自動車株式会社「HINO DUTROお役立ちメンテナンスガイド」